

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192700082		
法人名	NPO法人 まめなかな		
事業所名	小規模多機能事業所 さくらそう		
所在地	岐阜県高山市赤保木町970-1		
自己評価作成日	平成27年12月14日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/7/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_021_kani%3Dtrue&E_gyosyoCd=2192700082-008Pr_ofCd=21&Ver:si_onCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高山市は高齢者の独居世帯が多く、適切な援助がないと生活や身体状況が悪化する可能性の方がおられます。そのような方々の健康維持や認知症進行予防を図るため、レクリエーション、習字教室や音楽療法、気功教室などを定期的に行っており、天気の良い時には散歩、畑作業、花植えなど日常での楽しみを持って過ごしてもらえるように配慮しています。家庭的な雰囲気の中で過ごすことができるように努めています。また認知症カフェを開催して、施設の利用者さんのみならず、近隣の方も利用できるような事業所を目指しています。また重度の方に対しても、看取りを含めてケアを行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設1年目の事業所は、同系列のグループホーム・シェアハウスと同じ場所にあり、地域福祉の社会資源のひとつとして存在感を高めている。又、小規模多機能型事業所同士で結成した協議会の一員として、情報を交換し、事業運営や質の高いサービスに反映させている。利用者の心身の活性化には、音楽療法、習字、気功教室等を取り入れている。更に社会福祉協議会と協力し、膝腰体操・認知症カフェなどの各種イベントを開催し、地域住民との交流の場となっている。利用者は、自由な雰囲気の中で、自分のやりたい事に生き生きと取り組んでいる。利用者が安心して最期まで、その人らしく暮らし続けられるように、心をこめて支援をして

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『年をとって認知症や体が不自由になっても「地域の中で生き生きと」と暮らしていけるように』という理念を職員が共有し、実際の介護にあたっている。	理念は、事業所内の目立つ位置に掲示し、ミーティングや日々のケアの中でも、その意義や実践目標を職員間で共有している。認知症や体が不自由になっても、住み慣れた地域の中で、利用者が生き生きと暮らし続けられるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事等があるときには、地域住民に声掛けしているが、実際に参加していただく機会は少ない。職員の数が限られているため、人足等への参加は限られている。	事業所内で行う膝腰体操や納涼会、認知症カフェなどに、地域の人たちが参加し、利用者との交流の場になっている。事業所からは、地域の老人会や福祉イベント、防災訓練に参加をし、地域の一員として親しい付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協と協力して、ひざ腰体操教室を施設内で開催している。近隣住民の方が数名参加されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回会議を行い、市からも参加していただき、利用状況等を報告している。	会議は隔月に開催し、利用実績や運営の実情を報告し、意見を交わしている。認知症の人との向き合い方や予防、レクリエーションの取り組み、イベント企画、地域との交流促進を話し合い、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用状況を毎月報告している。また介護保険について不明な点があれば、市に問い合わせしている。	市の担当課へ代表者が出向き、運営の実情を伝えている。管理者は、空き情報や成年後見制度など、電話で相談している。市主催の各種研修会に参加し、新しい情報を得るなどして、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間は玄関を開放し、夜間は安全の為に職員の配置の関係上、施錠を行っている。ベッドからの転落防止のため、家族の了承のうえ、柵を使用している。	言葉や服薬による拘束を含め、身体拘束の弊害を職員が正しく認識し、拘束をしないケアを実践している。玄関は、日中は開放している。センサーチャイムで利用者の行動を察知し、さりげなく寄り添いながら、自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングで勉強会を行い、拘束についてと虐待防止への取り組みをしている。また利用者への支援の際、雑な言動をとらないように職員間でも注意している。		

岐阜県 小規模多機能事業所 さくらそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	金銭トラブル等が過去にあった方など、後見人制度などの情報提供を行い、制度活用を促している。また後見人制度についての研修にいった職員が職員ミーティングで報告し、職員間での情報共有を図った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際に、本人・家族に契約内容についてお伝えし、理解をしていただくように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	朝の申し送りや、連絡ノートの活用により、スタッフ間での情報共有を図り、支援に反映させている。	通いの送迎時や、家族が事業所へ訪問した時に、意見や要望を聴き、速やかに対処できる体制を取っている。事業所からは、本人の利用時の状態を細かく書面で報告し、さくらそう便りや事業所新聞を配布して、家族との信頼関係を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	数か月に一度、法人内の各施設の代表があつまり代表者会議を開いている。各施設の代表からのそれぞれの施設でまとめた意見を聞き、今後の方針を決めている。	管理者は、毎月のミーティングで、職員から出た意見や提案を取りまとめ、代表者会議で検討し、運営に反映させている。また、ケアの気づきや地域交流の進め方、職員の勤務調整なども話し合い、職場環境の活性化に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の研修参加を積極的に推奨し、職員の意欲向上に努めている。夏季・冬季休暇を設け、リフレッシュできるように図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修は、できるだけ参加できるように配慮されている。また研修のお知らせを周知して参加できるように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の小規模多機能事業所と連携して、『小規模多機能事業所連絡会議』を定期的に行い、他事業所との意見交換・情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規受付時、契約時などにケアマネジャーから聞き取りを行い、本人・家族の不安ごとや意向を把握している。また職員からも本人に声掛けするなどして意向を確認し、把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族が困っていることについては、常にコミュニケーションをとり、話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り等において、今優先すべきニーズを把握し、スタッフで話し合い、より良い支援をできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることを見出し、茶碗拭きや洗濯たたみなどをお任せしたり、職員と一緒に作業することなどをして、少しでもできることを増やしていけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対して、利用者に関わっていただけるように情報提供している。必要に応じて利用者の要望を家族にお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族や知人との外出など、なじみの店にでかけるなど自由にさせていただいている。面会なども、自由におこなえるように対応している。	家族や友人と、馴染みの美容院や喫茶店などに出かけている。併設のシェアハウスの入居者とも日々交流している。認知症カフェや地域のイベントにも出かけ、馴染みの人との関係を継続している。タクシーで、希望の場所へ出かける人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性もあり、必要に応じて、利用者同士の関わりが円滑にできるように介入して関係調整を行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者、家族に対しても相談援助、情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ皆が、ひとりひとりに対してコミュニケーションをとり、聞き取るなかで問題があれば、職員間での話し合いなどを行い、より良い方向へむかうように援助している。	職員は、個々の生活歴や言動、会話等から利用者の思いや意向を把握している。意思疎通が困難な場合は、本人の表情やしぐさ、家族からも聴き、思いを汲み取っている。園芸が好きな人、歌が好きな人など、趣味や習慣、嗜好などを把握し、利用者の日々の暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント等で本人の生活歴・趣味等を確認し、買い物支援、ドライブ、自然と触れ合える機会など、その人のやりたいことをできる範囲で取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント等でADLの確認を行い、本人の情報確認を行っている。またできる限り規則正しい生活を行ってもらえるように、定期的に声かけし、部屋から出てこない方がおられるときには訪室し、バイタルチェックを行って身体状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティング内で各利用者にたいしての課題を話し合いしている。モニタリングを毎月行っている。そのうえで必要性があれば、計画の変更をおこなっている。	介護計画は、本人がどのように暮らしたいかを把握し、家族の意向も確認している。職員や関係者の意見を踏まえ、利用者が住み慣れた地域の中で、健康を維持し、その人らしく暮らせるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア内容は個別の介護記録に記入し、重要事項については都度申し送りし、職員で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内で習字教室や気功教室、音楽療法を行ったりして、さまざま機会を利用者に提供している。また社協と協力してひざ腰体操を定期的開催している。		

岐阜県 小規模多機能事業所 さくらそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物支援や近隣でのイベントがある際には、外出を企画実行している。社協主催のマス釣りやリンゴ狩りがある際にも利用者から参加者を募り、同行支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先し、かかりつけ医を利用していただいている。施設職員からもかかりつけ医に都度報告し、指示を仰いでいる。	従来のかかりつけ医を継続する人は、家族が受診介助をしている。協力医の場合は、月2回の往診がある。家族の都合や急変時には、看護師が同行し、主治医との連携を密にし、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の悪い方などがあれば、すぐに看護師に伝え、適切に対応できるように指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との情報交換を行い、サマリーや電話での情報提供、退院調整会議などへの参加など、退院後速やかに元の生活に戻れるようにサービス調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期の利用者については、積極的治療を望むか、家族の意向を確認している。	重度化や終末期の支援方針を定め、本人・家族に説明している。段階ごとに医師、関係者で話し合い、家族の協力の下、終末期の支援体制を整えている。看取りの事例はないが、ターミナルケアに対応できるように、職員研修を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	これまでにAEDについての講習会を行った。今後は、急変時の対応についての勉強会を開催していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者を含めた避難訓練を今年度3回行っている。緊急連絡網を作り、災害時等に速やかに連絡できる体制を整える取り組みをしている。	災害訓練では、消防署の協力の下、火災を中心に実施をしている。夜間を想定し、通報・避難・消火などを、併設の施設と連携して行ない、対応力の強化を図っている。地域防災訓練にも参加し、非常食や防災用品も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方についても配慮して、接遇についても注意している。他の利用者に迷惑が及ばない範囲で利用者本人ができることを尊重している。	職員は、利用者個々の人格や価値観を尊重し、自尊心を傷つけない言葉と、思いやりのある態度で接している。利用者の自由な行動を見守り、個々の持てる力が十分に発揮されるような支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が好まれなかったり、希望されないことは行わないように、できるだけご本人の意思を尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意向を聞き、ペースに合わせている。起床時間や入浴時間など可能な限り本人の希望に沿うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で管理できない方は職員が介助して、適切に身だしなみができるように配慮している。また入浴準備などは可能な方は本人に用意していただくが、それが難しい方は職員が介助して行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりできる範囲で、食事の用意・片付け・食器拭きをお願いしている。	調理専門の職員が、利用者の好みの食べ物を把握し、献立に取り入れている。利用者も、野菜の皮むきや片付けなどを手伝っている。職員は、別室で同じ食事を摂り、交代で見守りと介助をしながら、楽しい食事となるよう、雰囲気づくりに努めている。	職員の休憩時間も必要だが、職員と利用者が一緒に食べながら、美味しさと楽しさを共有することが出来ないか、また、食事時のテレビ内容を話題にすると、テレビを背にしている人もいるので、利用者にとって、一番良い方法を検討されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量をチェックしている。体調が悪い方でも食事摂取しやすいように、うどんやおかゆの提供をしている。またその人に合わせた食事形態を都度検討し、適切に食事をとれるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行えない人は本人の状態にあった口腔ケアを実施し、適切に清潔を保てるように努めている。		

岐阜県 小規模多機能事業所 さくらそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期のトイレ誘導を行い、できるだけトイレでの排泄を目指している。オムツ・パットもそれぞれの人に合ったものになるように検討し、コスト面でも無駄がないように配慮している。	排泄チェック票を基に、個々に合ったトイレ誘導を行っている。排泄の自立が高まることで、おむつ使用の人が紙パンツに変わり、利用者の自信と費用の削減にも繋がっている。泊まりの人は、状態に応じてトイレに近い部屋を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況を確認し、便秘傾向の方には排便コントロールを行うため、職員と看護師が話し合い、必要に応じて下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ時間をとり、一人ひとりゆったりと入浴できるように配慮している。洗身行為はできるだけ本人で行っていただき、できない方は介助するなど、それぞれの身体状態に合わせて入浴をおこなっている。	利用者の希望を確認し、機械浴と個浴での入浴を選択している。気分の進まない人には、話題をかえたり、時間をずらすなどの工夫をしている。個々の好みの湯加減や時間に合わせ、ゆったりと楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症の方が夜間に叫んだりされることもあるので、環境を完全に整えることは難しいこともあるが、できるだけ落ち着いた環境で生活できるように努めている。また日中体調が悪く起きているのが辛い方などがいた場合には必要に応じて臥床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の健康状態を把握し、薬の変更時など本人の状態など介護記録に記入している。体調が悪い時などには、主治医等に連絡し指示を仰いでいる。連絡事項について、申し送りやノートにて行い職員間での周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できるだけ、一人ひとりの楽しみを把握し、散歩機会の提供やカフェの実施、塗り絵等への参加機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人との外出は自由に行ってもらっている。施設での外出は、買い物や花見等を企画して定期的に行っている。	日頃は、事業所周辺を散歩している。定期的買い物や喫茶店、花見などに出かけている。社会福祉協議会主催のリンゴ狩りや魚釣り等のイベントにも参加している。家族の協力で外泊、温泉に出かける人もある。	提供した外出支援が、十分に理解されていない家族がある。情報発信の工夫に期待をしたい。

岐阜県 小規模多機能事業所 さくらそう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援は定期的に行っている。自己判断のできる方は、自由に買い物や外食での外出を行っていただいている。 金銭管理が難しいかた・家族から依頼のあった方は施設で金銭管理をする場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話(携帯電話)、手紙などは自由におこなっていただいている。必要に応じて本人に代行して家族に電話し、必要事項を伝えることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースをだれでもどこでも利用できるように支援している。自分たちの花を飾り付けて飾っておられる方もいる。またプランターに花植えをしてもらえるように支援もしている。トイレも清潔に使用できるように努めている。	適切に空調管理された共用の間からは、季節毎の景色を眺める事ができ、対面式の台所から、料理の匂いがして、生活感がある。習字や共同作品、花を飾り、リハビリ器具、大型ソファを設置して、個々が好きな場所で過ごす事ができ、居心地のよい場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースではいつでも自由に過ごせるようにしている。お菓子をもちこんで話をされるかたもおられる。多くの休憩場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのものを持ち込んでもらい、できるだけ住みやすい環境で過ごしてもらるように配慮している。 家具持ち込みについては、家人の協力もお願いしているが、あまり協力を得られない場合もある。	泊まりの人は、ラジオや使い慣れた櫛、小物などを持参している。長期の宿泊者は、家具やテレビ、観葉植物などを持ち込んでいる。利用者の中には、携帯電話で、家族と連絡を取り合い、安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内ではスリッパを使わない(転倒防止)、2Fの転落防止のスライド柵など、安全に過ごせるように環境面の配慮をしている。		